

中海エコ活動レポート



写真提供：(財)中海水鳥国際交流基金財団

北に帰るコハクチョウたちが、別れを惜しむように、お互いにあいさつをしています。

■地域の住民活動

- 中海自然再生協議会
～中海自然再生全体構想を策定～
- NPO法人未来守りネットワーク
～よみがえれ中海～
- NPO法人自然再生センター
崎津地域部会
～浮島ビオトープの設置～

- 彦名地区環境をよくする会・彦名地区チビ子環境パトロール隊
～泳げる中海を取り戻すために～

■イベント情報

■湖沼水質保全計画について

■国土交通省出雲河川事務所からのお知らせ

■コラム

古代の中海(4)

地域の住民活動のご紹介

～よみがえれ、豊かで遊べるきれいな中海～

中海自然再生全体構想を策定 中海自然再生協議会

【自然再生の目標】

昭和27(1952)年ころまでの中海はオゴノリ、アオサ、ウミトラノオなどの海藻やアマモ、コアマモなどの海草が大群落をなし、赤貝（サルボウ、藻貝）は養殖カキとともに有名で、スズキ、チヌ、オダエビ、ウナギ、ハゼなどが豊かな漁場を形成していました。

目指すのは、このような昭和20年代後半から30年代前半の「豊かで遊べるきれいな中海」です。豊かな汽水湖の環境と生態系、そして心に潤いをもたらすきれいな自然を取り戻し、かつての中海の自然環境や資源循環の再構築が目標です。



【中海自然再生協議会とは】

平成15年に制定された「自然再生推進法」にもとづいて、平成19年6月にNPO法人自然再生センターの呼びかけにより組織化されました。全国に20の協議会がありますが、民間主導でできたのは中海だけ、2つの県にまたがるのもここだけです。現在の構成員は個人(専門家を含む)47人、団体4、中海を取り巻くすべての市町と両県、国交省・農水省・



環境省・経産省および島根大学汽水域研究センターで、2ヶ月に一度のペースで討議を行ってきて、この全体構想がまとめられました。

【目標達成への道すじ】

大きな目標をどのようにして実現するかについて何回もの、熱心な討論がなされ、5つの推進の柱が決められました。

①水辺の保全・再生と汽水域生態系の保全、②水質と底質の改善による環境再生、③水鳥との共存とワイズユース、④将来を担う子ども達と進める環境学習の推進、⑤循環型社会の構築、が5つの推進の柱です。

協議会は4月からは第2期の活動に移りますが、これらの柱をもとに、具体的な実施計画を1年間をかけて検討する予定です。



■事務局

NPO法人自然再生センター
TEL (0852)21-4882
FAX (0852)61-0900

■ホームページ

[中海自然再生協議会]
<http://nakaumi-saisei.sakura.ne.jp/>
[NPO法人自然再生センター]
<http://www.sizen-saisei.org/>

【イラストについて】

ここにある3つのイラストは、中海の自然と仲良くするためのポスター・イラスト・絵画を募集し、応募のあったポスターなどの中で最も優秀な作品として選ばれたものです。

よみがえれ中海（中海 再生プロジェクト）～NPO法人未来守りネットワーク～

【活動のきっかけ】

NPO法人未来守りネットワークは、地元企業人が、地元貢献と会社のためのISO1400取得ではなく直接地元の自然再生に投資して「まちづくり」を行う目的で発足してから、今年5年目を迎えます。

未来守りネットワークでは、4年間にわたって、地元の子ども、漁協、企業の協力を得て、中海でアマモ・コアマモ再生事業に取り組んだ結果、水質浄化や魚類の産卵・育成場として着実に成果を上げています。

しかし、中海は干拓に伴う浅場の消滅や無作為な護岸によりアマモ・コアマモが生息できる場所が、あまりにも少ない現状です。



大崎の浅場造成地で行ったコアマモ再生の風景

【未来につなぐ活動】

国による浅場の再生が始まっていますが、一度壊れた自然の再生は長い年月を要し再生するのではないのでしょうか。

「継続は力なり」という言葉があるように、未来守りネットワークは次世代に繋げるため「未来守りチャイルド・クラブ」を4年前から発足させ、今では誰より中海再生に対し積極的に取り組んでいます。

境港市で開催されたラムサール条約登録1周年式典において、アマモ・コアマモ移植事業を発表し、また宍道湖・中海ラムサール条約の宣言文を発表した彼らは自分たちで作ったアマモ・コアマモが中海をいつかは豊かで綺麗な中海にしてくれると信じて活動しています。



KODOMOラムサール<中海・宍道湖>全国湿地交流での発表

■NPO法人未来守りネットワーク
理事長 奥森 隆夫
TEL (0859)47-4330

浮島ビオトープの設置

～NPO法人自然再生センター崎津地域部会～

【実証試験を開始！】

私達は「取り戻そう、豊かで遊べるきれいな中海」を合言葉に、昭和30年代前半まで沢山の人が遊び漁をした中海を再生しようと中海干拓地承水路で国土交通省より水面占有許可を頂き実証試験を始めたところです。

この実証試験は①浮島に植栽した塩湿地植物のビオトープ化の可能性 ②浮島に植栽した塩湿地植物の根による水質浄化能力のデータの収集 ③水中根による小魚の集積及び産卵状況データの収集 ④ビオトープと有用微生物群（EM）等による水質、底質改善データの収集 ⑤コアマモの自生可能性試験を行うものです。



これが浮島ビオトープの基礎



子どもたちと一緒に浮島ビオトープを作りました。



みんなで作った浮島ビオトープを中海干拓地承水路に設置しました。

【目指すもの】

私達の世代で自然の循環を断ち切り再生不能とさえ思われるほど汚してしまった中海。ここに小さな浮島を浮かべて小学生、中学生の皆さんに自然循環の大切さを感じる事のできる環境学習の場とし、この活動を引き継いでいただくことで、私達の世代では果たすことが出来ないであろう遊べるきれいな中海の再生を願うものです。

NPO法人自然再生センター崎津地域部会
部会長 渡部 敏樹
問合せ先 事務局 谷野 彬成
TEL (0859) 24-4120

泳げる中海を取り戻すために

～彦名地区環境をよくする会

彦名地区チビッ子環境パトロール隊～

【チビッ子環境パトロール隊を結成】

私達が幼い頃生活の現場であった「中海」が、今なお富栄養という成人病に苦しんでいます。この汚濁の最大原因になっている生活雑排水について、汚濁原因者であり加害者である私達が水環境の保全に一層の関心を持って水質浄化のための実践活動を行うことが重要になってきています。

このような現況にあって、1991年6月「泳げる中海を取り戻すためには」を活動テーマに掲げ、環境に関心のある次代を担う子ども達に呼びかけチビッ子環境パトロール隊を立ち上げ、町内の環境パトロール、廃パンストによる台所排水の浄化作戦の展開、親子勉強会、中海水質調査、絶滅危惧の心配がされているメダカの生息調査等の実践的な活動を今日まで継続してきています。

【対策は、家庭生活の見直しから】

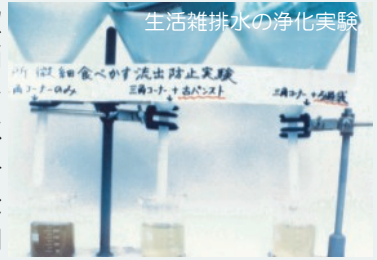
下水道が完備されていない私たちの地域では、『川の水はきれいであるか』、『川にご飯粒や、麺類などが流れていないか』など20のチェック項目について1項目5段階評価の100点満点で隊員がチェックする環境パトロールを行っています。運動を始めた1991年は47点、2007年には81点にまで向上しました。



町内環境パトロール

これは、各家庭の古いストッキングの利活用(腰の部分は股下5cmくらいに切り、両端を結び三角コーナーに被せる、足の部分は15cm程度に輪切りにし片方を結びバスケットに被せる)による台所排水の微細食べ粕の流出防止作戦の展開、汚れた食器

をほろきれでふき取る、米のとぎ汁・お酒やビール・ジュースを飲んだコップの洗水等は庭木に撒く等の各家庭での汚水を出さない・流さない等、周知徹底による効果です。



生活雑排水の浄化実験

結果として町内を流れる小川には、たくさんのメダカやシジミがよみがえってきてとても喜んでいきます。

【継続した地域全体での取組み】

また、広報紙の環境新聞『中海』を1990年より発行し、子どもエコクラブの活動や、町民の皆さんの各種環境保全の取組みを紹介、活動情報を共有し町民一丸となって『泳げる中海を取り戻そう』を合言葉に取組みを展開しています。



メダカの探検調査

『身近にできることを一つずつ確実に積み上げる』『小さな積み上げ大きな成果』を基本的なスタンスにこれまで培ってきた活動を継続していきたいと思っています。

■彦名地区環境をよくする会 会長

彦名地区チビッ子環境パトロール隊 サポーター
向井 哲朗

イベント・活動カレンダー

■7月以降のイベント、このレポート発行後に開催が決定したイベントは、ホームページ（中海エコ活動イベント情報 <http://db.pref.tottori.jp/NEAI.nsf>）に掲載しています。

月	日	活動予定
4	18(土)	第11回中海自然再生協議会 総会 問合せ先 自然再生センター(0852)21-4882
	19(日)～	中海自然再生実施計画 募集 問合せ先 自然再生センター(0852)21-4882
	26(日)	ゴビウス定例観察会「身近な生きものを飼ってみよう」 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス(0853)63-7100
	29(水)	水鳥公園ガイドウォーク「公園一周探検」 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139
5	2(土)	水鳥公園ガイドウォーク「シギの観察」 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139
	3(日)	水鳥公園ガイドウォーク「貝殻掘り」 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139
	4(月)	水鳥公園ガイドウォーク「春の草花観察(タンポポ)」 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139
	6(水)	水鳥公園ガイドウォーク「一周ごみ調べ」 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139

月	日	活動予定
5	16(土)	NPO自然再生センター総会 問合せ先 自然再生センター(0852)21-4882
	17(日)	ゴビウス定例観察会「ハクチョウたちの採餌場・ふゆみずたんぼで生きもの探しと田植えを楽しもう」 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス(0853)63-7100
	30(土)	中海夕暮れコンサート(湊山公園) 問合せ先 中海再生プロジェクト(中海TV)(0859)29-2854
6	14(日)	中海・宍道湖一斉清掃 問合せ先 市役所・町役場環境担当部局
	(中旬)	アマモ種子採取イベント 問合せ先 未来守りネットワーク(0859)47-4330
	27(土)	中海夕暮れコンサート(湊山公園) 問合せ先 中海再生プロジェクト(中海TV)(0859)29-2854
	28(日)	ゴビウス定例観察会「メダカを育ててみよう」 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス(0853)63-7100
(予定)	第12回中海自然再生協議会 総会 問合せ先 自然再生センター(0852)21-4882	

湖沼水質保全計画について

中海及び宍道湖は過去から豊かな水産資源や、住民のレクリエーションの場となるなど人々の生活や活動を支える重要な水環境となっています。しかしながら全国の多くの湖沼と同じように、両湖とも周辺で営まれる社会・経済活動の活発化に伴い富栄養化が進み、アオコや赤潮が発生するようになりました。

このため、中海、宍道湖ではそれぞれ平成元年度より湖沼水質保全特別措置法に基づく指定湖沼の指定を受け、5年を1期とする湖沼水質保全計画（以下保全計画）を策定しています。これまでに4期策定し、平成20年度が第4期計画(H16～20年度)の最終年度です。保全計画では下水道、農業集落排水施設、浄化槽の整備といった生活排水対策や工場・事業場からの排水規制をはじめ、農地への施肥対策、山林の適正管理、道路路面の清掃など様々な施策を盛り込み、湖沼へ流入する汚濁負荷を減らすよう努力をしています。表1に中海における汚水処理施設の整備状況の変化を示します。下水道、農業集落排水、浄化槽ともに順調に整備人口が増加していることが分かります。指定湖沼の指定を受ける前には汚水処理普及率は約15%に過ぎませんでしたが、平成19年度末時点では約76%にまで増加しました。

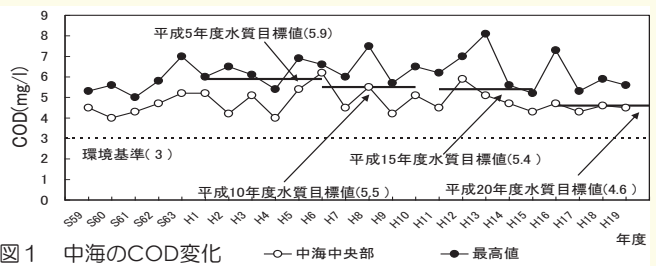


図1 中海のCOD変化

一方、図1に中海のCODの経年変化のグラフを示します。年によって上下はありますが概ね横ばい状況にあるといえます。下水道等の排水処理施設の整備は着実に進んでいますが、一方で中海、宍道湖に流入する負荷の大部分を占める農地、山林、市街地（道路）からの負荷については対策が難しいため、まだまだ十分に減らない状況です。今後は排水処理施設のさらなる整備はもちろですが、農地、山林、市街地から流出する負荷についても対策を行うことが重要だと考えられます。

鳥取県と島根県では平成21年度に中海の第5期湖沼水質保全計画を策定します（宍道湖の第5期計画は島根県で策定）。中身は先に述べたような対策の他、望ましい湖沼の水環境や将来像について定め、行政、住民で共有することとなっています。策定にあたっては住民の皆さんの意見をお聞きする場としてパブリックコメント等を予定していますので、その際には皆さん どのしご意見をお寄せ下さい。

- 島根県環境生活部環境政策課
水環境グループ (0852)25-5562
- 鳥取県生活環境部水・大気環境課
水質担当 (0857)26-7197

	指定前 (S63年度)	第1期終了時 (H5年度)	第2期終了時 (H10年度)	第3期終了時 (H15年度)	第4期 (H19年度時点)
下水道整備人口	25.2千人	42.1千人	56.5千人	79.2千人	89.1千人
農業集落排水整備人口	0.2千人	5.1千人	14.6千人	21.1千人	21.0千人
浄化槽整備人口		1.6千人	4.8千人	9.5千人	11.6千人
汚水処理人口(汚水処理普及率)	25.4千人 (15.7%)	48.8千人 (30.7%)	75.9千人 (47.3%)	109.8千人 (75.3%)	121.7千人 (76.1%)

表1 汚水処理整備人口の変遷 整備人口は島根・鳥取の合計

国土交通省出雲河川事務所からのお知らせ

○平成20年11月に中海出張所を移転しました。

中海出張所は、地震や高潮などの自然災害時にも地域の拠点として、迅速かつ的確な対応がとれるよう耐震化対策を講じるなどの庁舎建替工事を行い、安来市東赤江町にある「なかつみ農村公園」内の巨大風車（風力発電施設）隣に移転しました。

災害時の対応はもとより、平常時の許認可手続きや各種相談など、中海沿岸地域の皆さまに親しまれる出張所となるよう、職員一同一丸となって努めてまいります。

出張所からは中海をはじめ、雄大な大山を眺望することもできます。近隣へお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。（「巨大風車」が目印です。）

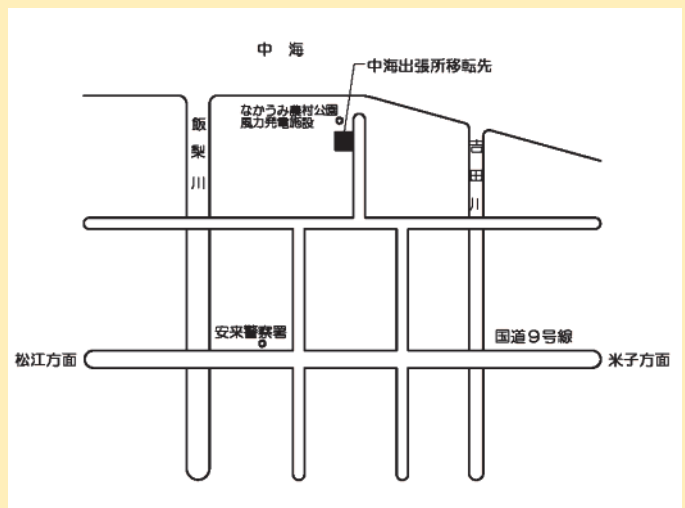
〔新住所〕

〒692-0016

島根県安来市東赤江町福井1637番地

TEL (0854)23-7433

FAX (0854)23-0789（電話・FAX番号も変わりました）



コラム 古代の中海（4）

『出雲国風土記』に登場する話で知名度ナンバーワンは国引き神話でしょう。サヒメヤマ（三瓶山）とヒノカミヤマ（大山）を杭に、夜見の浜と園の長浜を綱にして、北陸や遠くは朝鮮半島から国を引き寄せたという気宇壮大なお話です。

大山の頂上から見る弓浜半島が見事な弧を描いている姿を目にした人は多いでしょうが、園の長浜を俯瞰した人は少ないのではないのでしょうか。出雲大社の東に弥山（みせん）という標高500メートルほどの山がありますが、この頂上から見る園の長浜は弓浜半島の弧形に劣らず見事です。ちょうど砂浜のカーブが消える辺りのかなたに三瓶山が碧く霞んでおり、これを引き綱に見立てた古代人のセンスにはさすがというほかはありません。この物語の作者は双方の山に登った経験があったのかもしれませんが。



ヒノカミヤマ(大山)頂上から見た弓浜半島

ところで、以前、NHKのあるクイズ番組で「大根島は昔はなんと呼ばれていたでしょう？」という問題が出されたことがあります。ご存知でしょうか？答えは「タコ島」で、同風土記に次のような言い伝えが載っています。なお、当時は現在の弓浜半島は、根元のあたりがまだ海であったために「伯耆の国の内の夜見の島」と記されています。

「タコ島（大根島）は、周囲が118里と百歩、高さは3丈の島である。古老の伝えるところによれば、出雲郡の杵築の岬（現在の日御碕）で蛸が泳いでいたところに大鷲が飛んで来てこの蛸をつかみとり、この島までやってきて舞い降りた。このことからこの島を蛸島と呼ぶようになった。今の人はこれを誤ってタク島と呼んでいる。・・・

ムカデ島（江島）は、周囲が5里130歩で高さが2丈ほどの島である。古老の伝えるところによれば、蛸島に住んでいた蛸がムカデをくわえてこの島にいった。それでこの島をムカデ島と呼ぶようになった。・・・この島から伯耆の国の夜見の島に至るまで、幅60歩、距離にして2里ほどの間岩が続いて、馬に乗っても通行が可能である。潮が満ちてくると深さは2尺5寸ぐらいまでになるが、潮が引くとほとんど陸続きになる。



ムカデ島(江島)から見た弓浜半島とヒノカミヤマ(大山)

・・・栗江崎（美保関町岡鼻？）は夜見の島に面しており、西は入海（中海）と外海の境となっている。この入海で獲れる産物は、イルカ、ワニ、ボラ、スズキ、コノシロ、チヌ、シラウオ、ナマコ、エビ、ミルなどたくさんの種類があり、数えきれないほどである。」（『出雲国風土記』嶋根郡条より）

現在の両島は、あちこちで海岸線が埋め立てられており、当時の姿を偲ぶようすがありませんが、おそらくは、入り江がたくさんあり、それぞれタコやムカデの名前にふさわしい形をしていたのでしょう。

後段の記載からは、中海が豊かな海の幸を誇っていたことがよくわかります。同じく「入海」と表記されていますが、秋鹿郡に関する記述なので現在の宍道湖と考えられる一帯の水産物には、ボラ、スズキ、チヌ、エビしか例示してありませんので、中海の方が魚場とし断然優っていたと思われます。

中海にちなむ話で、国引き神話の次によく知られているのが、美保神社青柴垣（あおふしがき）神事の由来とされる古事記の一節です。

（アマテラスの命を受けて高天原から下ってきたタケミカズチに国譲りについてイエスカノーか答えを迫られたオオクニヌシは、）「私はお答えできません。私の子のヤヘコトシロヌシがお答えするでしょう。しかし、今、ヤヘコトシロヌシは鳥や魚を獲りに美保関のほうへ出かけていてまだ帰っていません。」と答えて、アメノトリフネノカミを遣いに出し、息子呼び戻された。そして、オオクニヌシが国譲りについて意向を尋ねられたところ「大変恐れ多いことでございます。この国は天つ神の御子に奉るべきと考えます。」とおっしゃって、乗っていた船を踏んで傾けてひっくり返し、周りに青い柴垣を作って身を隠してしまわれた。（『古事記』神代編葦原中国平定より）

これまで、出雲国風土記に載せられている伝承を中心に、「邑美の清水」、「朝酌の渡し」、「サメに娘を食べられた役人」「美保関とタマゴ」などの話を紹介してきましたが、古代の様子や伝説がこれだけたくさん残されている湖沼は、全国で他に例を見ません。このかけがえのない湖の環境をいつまでも大切に守っていききたいものです。

（島根 つぎ）

編集・発行者

鳥取県西部総合事務所

生活環境局環境・循環推進課

鳥取県米子市鞆町一丁目160

電話 (0859)31-9350

E-mail: seibuseikatsukankyo@pref.tottori.jp

Homepage: <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=69208>

島根県環境生活部環境政策課

島根県松江市殿町1番地

電話 (0852)22-5562

E-mail: kankyo@pref.shimane.lg.jp

Homepage: <http://www.pref.shimane.lg.jp/kankyo/>

記事募集

中海エコ活動レポートに掲載する記事、イベント情報、写真を募集しています。

詳しくは、左記連絡先に連絡していただくか、ホームページをご確認してください。

なお、投稿にあたっては出来る限り電子データで投稿をお願いします。